



笑いでつなごう地域の輪

—楽しくなきや始まらない—



つても笑いは必要であると考え
て、老人大学の上方演芸科に入
学。修了後、落語家の桂枝三郎先
生に出会い、今は福々亭多万輝
を名乗って月2回個人レッスンを
を受け本格的に落語の勉強をさ
れています。

ようこそそのお運びで

出囃子に乗って、桂三枝師匠
から贈られたという扇子と手ぬ
ぐいを手に、落ち着いたオレン
ジ色の和服を召された福々亭多
万輝さんの登場です。

まずは「なぞかけ」から

〈サロン・あべの〉11月の出会い 語」を楽しみました。

森輝代さんはいろいろな資格

平成19年11月17日(土)午後1

時4時、育徳コミュニティセ

ンター2階研修室において、〈サ

ロン・あべの〉は、福々亭多万輝

こと森輝代さん(写真次頁)の「落

「この会場」とかけて、「私の着

ているこの着物」ととく、その心

は「着てよかった・来てよかつ

た」・・・など、マクラ代わりに

「なぞかけ」を3つ4つして、場

出会い
ふれあい
助け合い

KSKQ

VOL.258

サロン
あべの



落語に。

ろくろ首

おじさんは、毎日のそのそ遊んでばかりいる不肖の甥にびつたりの良い話があると言い、お屋敷のお嬢さんに紹介することにする。

実はお嬢さんには難がある。夜中になるとすると首が伸びるのだ。甥はよく眠るたちなので夜中に目なんぞ覚めたことがない。問題ないだろうと承知した。

うるさ型のばあやさんの面接

もなんとか通過し、めでたく器量よしで財産持ちのお嬢さんと祝いの杯。初夜、昼間うかれすぎた新郎はさすがに環境が変わったせいか眠りが浅く、夜半にふと目を覚ます。すると……

「うわわわわ、伸びた伸びた！」
 あらかじめ聞いて承知していたはずなのに、ぼんやりの甥も妖怪と床を共にして平気なほど鈍いわけではなく、逃げ戻ってきてしまう。

もう実家へ帰らせてくれと訴える甥に、今更どうして戻れるかとおじさんが諭す。

「そんなこと言わねえで、お屋敷に帰れ。お嬢さんが首を長くして待つてるで……」

老婆の休日

元気なりやこそ病院に来られ

お知らせ

<サロン・あべの>1月の出会い

内容…障害者とスポーツ

お客さま…奥田邦晴さん

(大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科教授)

日時…1月19日(土)午後1時～4時

場所…育徳コミュニティーセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL・06-6621-1901

最寄り駅=

地下鉄御堂筋線「西田辺」

下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL06-6691-1028 (富田慶子)

る。病気にかかったら来られな
 い!?! もはや肌に触れてくれ
 る男性は医者ばかり。高齢社会
 への皮肉を病院の待合室を舞台
 に思い切り滑稽化した老婆軍団
 の戯画。

酒のかす

一滴も飲めない男。酒のかす

を焼き、黒砂糖で味付けして食
 べたところ、顔が真っ赤にほて
 り良い心持ちに酔ってしまいま
 した。

「酒を飲んだ」と友達をだまし
 にかかりますが、「どれぐら
 い?」と聞かれ「2枚!」と答え
 て失敗。次の男には「アテ(肴)
 は?」「黒砂糖!」でまたも。い
 ろいろ教えられ3番目の男には

うまくいきそうになりますが、最後「酒はヒヤか？燗か？」
「よう、焼いてや！」

古典、新作織り交せての今日の3席は、登場人物も多く、場面転換も比較的多い演目で、それを中入りを挟んでとはいえ、続けて演じるのは玄人でもしんどいと聞きます。落語そのものの勉強はもとより、裏方の仕事やお茶子の仕事も率先して経験されるなど、奥深く勉強されているだけのことはある、とただただ感心しました。参加者一同笑いに沸いた（サロン・あべの）11月の出会いです。

（参加者28名 富田慶子）

.....

この（サロン・あべの）11月の出会いは「市民フォーラムおさか」協働事業として参加しています。

ばかばかしいところを一席・・・

ろくろ首には、大きく分けて、首が伸びるものと、首が抜け頭が自由に飛びまわるものの2種類があります。

首が伸びるタイプはろくろを回して陶器を作る際に粘土が長く伸びるように、異常に長く伸び縮みする首を持っています。このろくろ首は夜になると首を伸ばして、行灯の油を好んで舐めるかまたは人間や他の生物の精気を吸い取るとされています。

首が胴体から離れるタイプのろくろ首は、中国の妖怪「飛頭蛮」（ひとうばん、頭が胴体から離れて浮遊する妖怪）に由来するとも言われており、小泉八雲の作品『ろくろ首』にはこのいわゆる抜け首が登場します。この首が抜けるタイプのろくろ首は、夜間に人間などを襲い、血を吸うなどの悪さをするとされています。



江戸小唄や落語に出てくるろくろ首は伸びるようです。

ここで、ずっと前に聞いた、ろくろ首の古い小唄をひとつ・・・

長崎・丸山遊郭の女郎になじんだ男。

請け出して女房にしようと言が決まっ

たが、実はあの女はろくろ首だと耳打ちされ、恐怖のあまり夜逃げをしてみます。女は怒って、体は長崎のまま、首だけどこまでも伸ばして、男を追いかけていくのです。追いつ追われつ、海越え山越え、とうとう北海道・松前まで追い詰めて

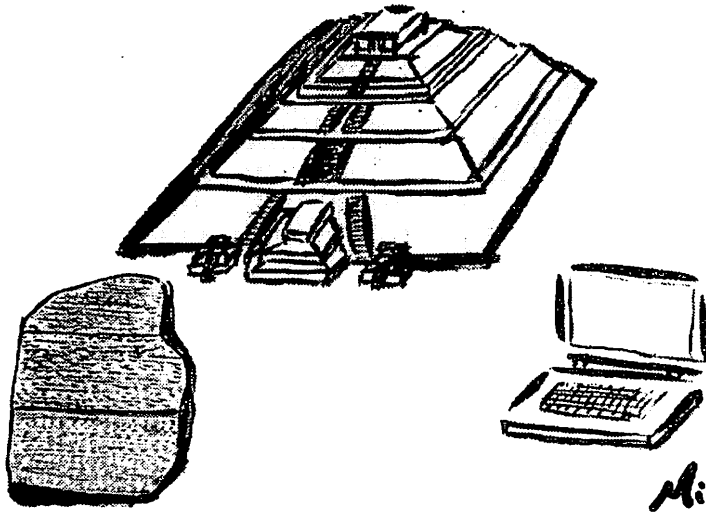
いきます。

さすがの化物もくたびれ果て、腹が減って、そこらの芋畑からサトイモを掘り出してむさぼり食ったので、松前の頭は何ともないのですが、長崎の尻がプー。

お後がよろしいようで。 (石)

師であること

先日、とても考えさせられる言葉に出会った。それは「人の師たることのできる唯一の条件はその人もまた誰かの弟子であったことがあるということ」(*)だということである。



教育を職業としている私には、いつも「師」という字は重たすぎるものだった。ごくたまに誰かしらの「恩師」などと紹介されると、穴にでも入りたくなるような心境になる。そんな立派なものではないのですよと、思いつきり否定したくなっていたのである。

ところが「師であること」の唯一の条件が、自分もまた師をもっていたことである」とすれば、私も充分に人の「師」になれる。「師」はそれでも尊ぶべき存在だろうが、「偉い人」だけが成れるというものではない。自分自身が偉くなくても、自分の師が立派な人であれば、自分もまた「師」になれるのである。

この考え方によれば「師」は自分が開発し、自分が得たものを「弟子」に渡すのではない。「師」は自分が受け継いだものを、次の世代にまた手渡す。連鎖として続くものを中継する一つの節であれば、それで充分なのである。

受け継ぐということは、一見、受け身的な

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

このように思われるかもしれない。そこには創造性がなく、現状維持的な消極的な姿勢しかないと思われているかもしれない。しかし、人類の歴史を見れば、どれほど失われた知識や知恵や技術が多かのように気づくとだろう。古代の人たちがどのように精巧な金細工を作ったか、巨大な石の建造物を造ったか、複雑な文字がどんな物語を語っているのか、わからないことが多い。

いや古代までさかのぼるまでもなく、現在でも伝統的な芸能や技術、あるいは最新の機

福祉タクシー当日予約OK

車いすや電動車いすを使用している私は、リフト付き福祉タクシーでの外出を考えた時、一般のタクシーのように道路で拾ったり、電話1本で頼むことができません。それどころか外出日の何日も前にタクシー会社に予約を入れないといけません。1社で予約できる時もあれば、数社に問い合わせをした時もありました。が、このほど朝日新聞に「福祉タクシー当日予約OK」という記事がありました。

「昇降機やスロープのついた福祉タクシーを利用当日でも予約できる配車センターが12月下旬、大阪に誕生する見通しになった。前日までの予約制や事業者ごとの対応の地域が多いが、携帯電話を利用し、予約までの時間が短縮される。障害者や高齢者の外出がより便利になりそうだ。大阪府などが申請した事業構想が11月1日、認可された。タクシー会社が共同のセンターを大阪市内に設立。登録した利用者からセンターに依頼電話があると、自動的に運転手の携帯にメールが送信され、応じられるタクシーを募るシステム。9月末現在、89社126台が参加を表明している。運賃は小型車が30分ごとに2000円と、一般の時間制運賃より50円安い。1回1000円の迎車料が必要。12月上旬から始める利用者登録などの問い合わせは全国福祉輸送サービス協会大阪支部(電話06-6258-1221)」

この記事を読んで10年ほど前、オーストラリアのブリスベンに行ったときのことを思い出しました。市内見物に行くのにホテルからリフト付きタクシーを呼ぶことができましたし、帰りは一般のタクシー乗り場にリフト付きタクシーが並んでいて、なんと便利なことと感心しました。日本でも早くそのようなになってほしいと願っていました。が、今回の記事で何日も前から天候や体調を気にしなくてもよいし、また出先からでもリフト付きタクシーを利用できるようになれば、迎車時間を気にせず行動できるのではと思うのです。(け)

ききみみずきん

械工業の技術でも受け継ぐ人が不足していて、それが消えていくこともあるという。コンピュータは、いまや世界各地で使われているが、もしもコンピュータを設計し作っている技術者たちが、何かの伝染病ですべて死んでしまったら、残された人たちは専門書や設計図をみながら、またもう一度、コンピュータを作ることができるようか。少なくとも私には無理だと思う。いくらたくさん

の時間と専門書を渡されても、集積回路をポーツと見ているだけで何もできないだろう。また、絵を考えてみるといいが、もしもすべての画家たちが何かの出来事で、みんな一斉に姿を消してしまったなら、残された人たちは美しい絵を見て感心することはあっても、どうやってそれを描けばいいのかかわからないのではないか。

あるいは、万葉集を理解し、その奥深さを充分に知っている人たちが、それを他の人に伝えられないまま世を去ってしまったら、万葉集の内容もまた失われるだろう。古い言葉の辞典さえあれば理解できるというものではない。「邦子、…ん歳の手習い」はお休みです。

(*)内田樹『下流志向』講談社、二〇〇七年

晴れのち晴れ-111-

稲垣恵雄

□冬至に思う

早いもので今年もあとわずかで終わろうとしている。この1年をふり返ってみると、今年も良いことや悪いことなどさまざまなことがあった。良いことはいつまでも心に温めておき、悪いことは深く反省して2度とくり返さないようにしたいと思っている。

さて12月22日は暦の上では「冬至」である。辞書によれば、冬至とは太陽の黄経が270度に達する時で北半球では正午における太陽の高度は1年中で最も低く、昼の長さが最も短いことを指す。また冬至のことを日南至ともいい、この逆が夏至である。

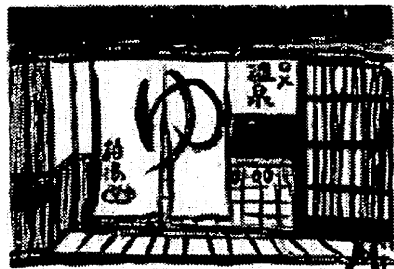
冬至の頃になると「一陽来復」ということばをよく耳にする。この一陽来復とは冬至の別称で「冬が去り春が来る」とか「悪いことばかりあったが、ようやく回復して良い方向に向かう」という意味である。どちらも先の見通しがよく、希望に満ちたものを感じる。特

に後者はこの1年間は悪いことばかりだったが、やっと良い方向に向いてきて来年こそはしっかりとがんばるぞということで、この時期に一陽来復ということばをよく聞くのである。

冬至といえば柚湯を連想する。我が家でも冬至の夜に数個の柚を袋に入れて湯船に浮かべて入ることにしている。そうすると柚の香りが周囲に漂い、いつもより全身が温まってとても快い気分になってくる。

ほっこりと鼻歌まじりの柚湯かな 恵雄

<サロン・あべの>のみなさん、この1年もいろいろお世話になりました。本当にありがとうございました。



熊野にハマッテます

霜月に入り、やっと秋らしき風情を感じております。

「サロン・あべの」256号を頂きながらやっと今日目にしました。いつも一言、お便りがありがとうございます。お元気で過ごしのことと存じます。

さて、「阿倍野の歴史と熊野路について」は、私今一番の関心事です。地元にながら、世界遺産の地、熊野街道巡りを今やっとウオ―キングしているところですよ。熊野三山、九十九王子、九十九王子は実数でなく数の多いことでは。熊野三山を指すとも考えられます。王子社の中でも海南市の藤代王子社、印南町の切部(切目)王子社、上富田町の稲葉根王子社、田辺市の滝尻王子社、発心門王子社は5体王子社として特に格式が高いといわれています。

大阪市内の1番目久保津王子は窪津王子とも書いてあります。熊野古道めぐり地図帳は実にくわしく熊野古道へのウオ―キングを導いてくれるマップです。ガイドさんとも知り合って月1回のペースで、無理のないように自然を楽しみながらグループで歩いていきます。

「寄りみち」にありました、八咫鳥やたがらすは勝利のシンボル！ 今号のサロン紙はとても嬉しい記事ばかりでした。ありがとうございました。
(東 百合子)

Mai スウェーデン 留学記 15

冬のロシア①ーサンクトペテルブルク編ー

今回は、スウェーデンからお隣フィンランドを挟んで、大国ロシアへの旅を2回に分けてお話ししたいと思います。みなさんは、「ロシア」と聞くとどんなイメージがあるでしょうか？ 見えない面が多すぎて謎でしょうか。でも、とても文化意識の高い国でもあります。スウェーデン留学中に多くの国を見ましたが、とても珍しく、面白い国でもあり、知れば知るほど味が出てくる国です。「スウェーデン留学記」とはなっていますが、スウェーデン以外の国も知っていたければ嬉しいです。

私は留学中「バスで行くロシア大ツアー」と

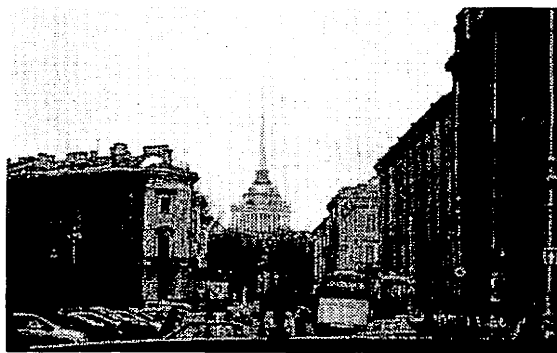
いうプログラムに参加しました。ヴェクシヨー大学はもちろん、ウプサラ大学、ストックホルム、エレブロ、リンシエピン、イエテボリ、ルンドなどのスウェーデンの主な大学が参加者を募り、バスで、スウェーデン・ストックホルムからフェリーでフィンランド・トウルクに向かい、そこからロシアに行くというとてもとても長い9日間ほどの旅です。

ヴェクシヨー大学からの参加者の中で日本人は私だけでしたが、すぐにフランス人の女の子やドイツ人、イタリア人の男の子、スペイン人の男の子達、リンシエピン大学に留学しているスペイン人の女の子とも仲良くなり、国際色豊かな大きなグループが出来上がりました。

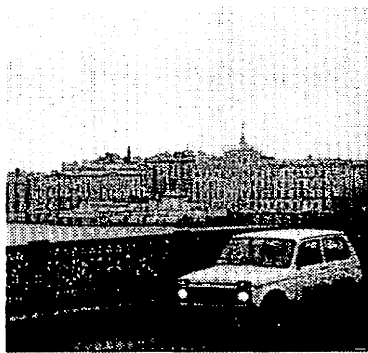
ストックホルムから始まった旅は、1度ロシア国境付近で休憩。早速、お金をユーロからロシアン・ルーブルに換えました。初めて見るルーブル・・・これから国境を越えるのがとても不思議でした。



冬宮殿（ネヴァ川からの景色）



サンクトペテルブルクの街並み



（「水の都」サンクトペテルブルク。ネヴァ川からの風景は、ストックホルムを思い起こします）

ヨーロッパ内を移動するとき、国境はシエンゲン条約でほとんど関係ありません。国内を移動するようなものです。でもロシアに行くときは、まず観光ビザを取得する必要があります。

あります。私のパスポートには、キリル文字で書かれたロシアの観光ビザが貼られています。キリル文字も不思議な文字にそのときは思えました。(今は、友人とのやり取りの中で、自分の名前はキリル文字で書く場合があるので、少し馴染みができたのですが…)フィンランドを出国し、次にロシアに入国するとき、少し緊張でした。パスポートを税関で見せている間、バスの中をロシア軍がすべてチェックしていました。あちこちで見える兵隊の姿は、スウェーデンともフィンランドとも、他のヨーロッパの国とも全然違う雰囲気を感じました。無事に税関を通過し、ロシアに入国できたとき、誰かが拍手し、バスの中は拍手喝采になりました。不思議の国に飛び込んだ感じでした。

まず、サンクトペテルブルクに向かい、無事に到着したのは夜の8時過ぎ。時間をロシア時間に合わせるため、時計を2時間速め、ホテルで遅い夕食をいただきました。さあ、疲れているので、大人しく寝るのかと思えば、私達は普通の学生です。これから行動の時間! というわけで、夜の10時から、サンクトペテルブルクのディスコに行くことになりました。正直、私は疲れていたのですが、みんなの説得に負け、一緒に行くことに決め

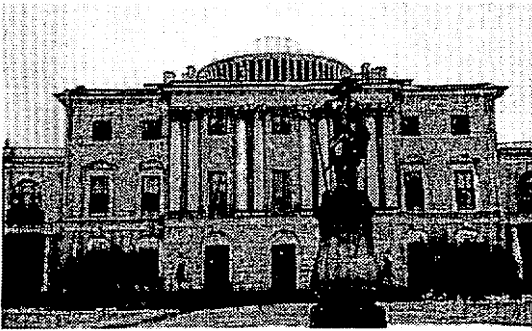
ました。何もかも初めて、そして、キリル文字はやっぱ記号のようです。面白かったのはサンクトペテルブルクのメトロの切符がコインのような形をしていたこと。それを改札の穴に入れるだけです。出るとき切符は要りません。そして、また驚いたのが、そのメトロのエスカレータの深さです! どこまで続くのか、終わりはあるのかと思うくらいに長く、深いエスカレータです。これも冷戦時代の名残だそうです。ところどころに、カメラの撮影禁止のマークがあります。寒い夜はずなのに、興奮して体がカッカしていました。ディスコでは、まずセキュリティチェックを受けないと中には入れません。いかにもロシア人のおばさんという感じの、有無を言わせないような立派な体格のおばさんに目の前を立ちほだかれ、鞆の中を見せるように言われます。そのとき、私は半分忘れかけていたのですが、おなかですいたときに食べれるように、スウェーデンで買っておいたバナナを一本入れていました。案の定、そのバナナを見つけたおばさんに、「ノー! バナナ!」と叫ばれ取り上げられました。要するに食べ物を持ち込み禁止というわけです。私と同じようにいつも鞆の中にお菓子を入れているドイツ人の友人は、ガムを取り上げられたらしく、

「ノー ガン(銃禁止)ではなくて、ノー ガムか」と力なく言っていました。取り上げられはしましたが、一応許可をもらったので中に入り、飲み物を注文し、周囲の様子を見ながらお喋りを楽しんでいました。また驚いたのは、ディスコに夜の11時半頃、中学生か小学校高学年くらいのロシア人の子ども達が来ていたことでした。そして小さい子どもがタバコを吸っている、その姿は異様な雰囲気でもあったのです。ロシア人の友人からは、「ロシアでは、子どものときから、ウオッカを飲む」ということは聞いていましたが、「ドイツではありえないな。こんな時間に子どもがうろつくなんで」とみんなで言いながら、一通り遊んでから退散したのでした。

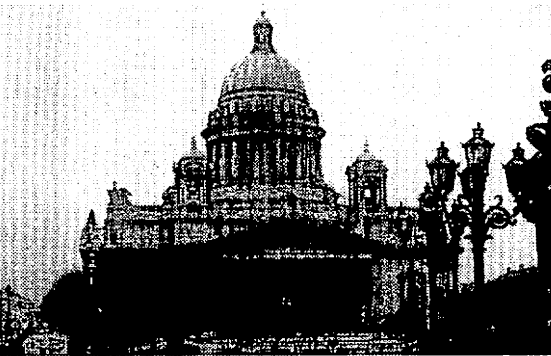
翌日、朝のサンクトペテルブルク市内を時々観光名所で立ち止まりながら、バスで回っていました。サンクトペテルブルクは、イタリアのベネチアに例えられるようですが、実はピョートル大帝がスウェーデンのストックホルムを真似て造ったものです。ロシア人の友人はよくストックホルムを見て、「サンクトペテルブルクに似ている。」と言って懐かしがっていましたが、美しさではストックホルムが勝っているというのが正直な感想でした。ただ、その規模は、サンクトペテルブル



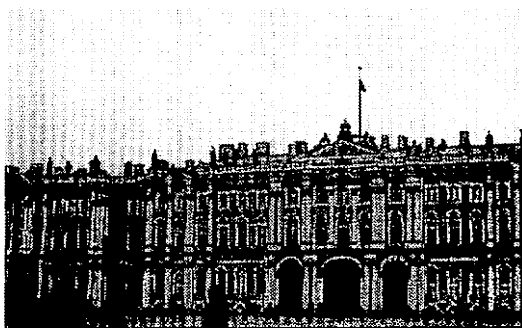
血の上の救世主教会 (ロシア正教の玉ねぎ型の屋根が特徴です。独特の色づかいは目をひきます)



パブロスク宮殿



聖イサアク大聖堂



エルミタージュ美術館 (美術館内のすごさは世界一!? 夜はライトアップされ、とてもキレイです)

クの方が大きく、改めて、ロシア帝国の偉大さを感じた瞬間でもありません。

血の上の救世主教会、エルミタージュ美術館、ペテロパブロフスク要塞、カザン聖堂、パブロスク宮殿、聖イサアク大聖堂・・・独特の色彩感覚と金びかに圧倒されるばかりでした。残念ながら夏の宮殿や冬の宮殿は、当時サミットがあったため、行くことができなかったのですが、エルミタージュ美術館は、学生であれば無料なのでたっぷり楽しめ、この国のスウェーデンとは比べ物にならないくらいの文化水準の高さに浸っていました。

夜になると、街は昼間とまったく違った顔を見せてくれます。観光名所ライトアップ、それがネヴァ川に映されます。浮かび上がったサンクトペテルブルクの姿は素晴らしい光景で、私の一番心に残った光景でした。

サンクトペテルブルクには一番長く滞在したのですが、その間に私達のインターナショナルなグループは良い仲間となりました。一緒にレストランに行き、ロシア料理を堪能したり、チヨコレートを食べたかったけれど値段が高かったため、妥協案として3人で1つずつ違うチヨコレートを買って、それを3等分

して食べたり、ロシア語がわからない中、みんなで協力して、ロシア人に英語で道を聞いたりして、街を探検していました。彼らが一緒だったので、行動範囲も広がったし、単なるツアーとは違ったロシアの一面を見ることができました。さあ、次回は首都モスクワを楽しみましょう!

今年も残りわずかとなりました。「スウェーデン留学記」、お付き合いいただきありがとうございます。感謝の気持ちを込めて、グツ ユール(メリー クリスマス)!

(清原 舞)

美智子のこんな話

岸田美智子

TVに出ました！

前回サロン紙にも掲載させていただいた、ヘルパーの不足問題は、ますます深刻になってきています。このままでは、地域で暮らしてきた私たち重度障害者の自立生活の維持も難しくなりつつあります。その上施設からの地域移行もストップせざるをえない危機的な状況になっていきます。このような深刻なヘルパー不足の問題を、たまたま知人のディレクターに伝えたところ、この問題で企画書を作ってくださり、関西TVの関西アンカーというニュース番組で取り上げられることになり、10分程度特集されました。夕方の6時30分頃の放送だったので見てもらえた方も多かったのではないかと、期待しています。

放映は、たった10分程度でしたが、4日間もの取材を受けました。私の自宅での介助状況はもちろんですが、夜のヘルパーさんの仕事内容を把握するために、取材チームが私の家に1晩泊まりこみの取材を受けました。1台の小さなカメラが私の寝室に設置され、その横の部屋では、女性ディレクターがモニターをチエックしていました。もう1人カメラマンがいて車の中で待機し、私が夜中にトイレなどでヘルパーさんを起こすシーンでカメラをまわしていました。一昼夜カメラに監視されている体験はもちろん初めてだったので、緊張して寝不足になったようでした。翌朝は疲れがとれませんでしたが、でもディレクターといろいろな話が出来て楽しかったです。このような泊り込みの撮影はよくあることで、前にもネズミの生態を撮るために、一昼夜、外でカメラをまわしていたことがあるそうです。その時は、トイレにとっても困ったそうです。ディレクターの仕事の大変さを、少し垣間見たようで共感できました。

この時の放送内容ですが、あいえる協会のヘルパー派遣事務所である、ホップの事務所も映りましたし、いろいろな形でヘルパー募集を行っているが、集まってこない苦しい状況や、新しい利用者を受け入れられない現状についての発言シーンがありました。大阪府も担当者が出て来られ、厳しい現状について国に要望しているという発言がありました。府としての考え方が一言もに私は思いました。府としての考え方が一言もなかったからです。そして、入所施設である北村園の職員へのインタビューもあり、ヘルパー不足の厳しい地域生活では入居者を安心して地域に送り出すことができないという発言もありました。私もインタビューを合計2時間近く受けたのですが、ほとんどカットでした。ただ、「障害者に生まれたことの責任は障害者だけで取るべきことなのか？これはおかしいだろう。もつと社会全体で責任を分担していくシステム作りが必要ではないか」というコメントだけが流されていました。時間の関係でコンパクトにまとめられていたので、視聴者にどれだけ伝わったのが心配です。

この放送が終わったとたんに私の携帯はメールの嵐でした。その後もいろいろな方の感想がかえってきています。やはりマスコミの力はたとえ10分でも、大きい力になる可能性がある、と改めて実感できた体験でした。



1月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いませんか。

■「サロン淀川」1月の出会い

日時：1月20日（日）午後1時30分～4時
内容：サロン亭 やすらぎ寄席

落語・マジックをお楽しみください

ゲスト：ボランティアグループ「朋友会」

場所：淀川区民センター「やすらぎ」

[大阪市淀川区三国本町2-14-3]

会費：なし

問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」1月の出会い

日時：1月12日（土）午後2時～4時
内容：書初めを楽しもう！

（書道用品準備しています）

場所：西区在宅サービスセンター、第1会議室
大阪市西区新町4-5-14 ☎06-6539-
8075地下鉄＝西長堀駅4-A号出口から
すぐ 市バス＝地下鉄西長堀駅から徒歩

会費：なし

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」1月の出会い

日時：1月26日（土）11時～13時

内容：サロン デ ウドン

うどんを生地からこねて作って、食べま
す。うんちくも聞けてお腹も満たされ、お
土産までありますよ

講師：窪田 新一氏（サロン淀川）

会費：200円

場所：西淀川区子ども・子育てプラザ

問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」1月の出会い

日時：1月13日（日）午後1時30分～4時

内容：映画上映会「モーツアルトとクジラ」

ゲスト：赤尾 広明氏

（視覚障害者ITサポート SkyShip）

場所：ギャラリーNOVA 自由空間

〒533-0032 大阪市東淀川区淡路5-10-7
☎06-6320-7036

会費：なし

問い合わせ先：鈴木昭二

☎06-6340-3082

℡06-6340-3012

■「サロンいたみ」1月の出会い

日時：1月19日（土）午後2時～

内容：ミニリース作り

場所：伸幸苑 [伊丹市寺本6-150]

会費：なし

問い合わせ先：安藤れい子 ☎072-784-1718

サロンの 童謡♪絵はがき

5枚1組 ¥180-

元気です

富田さん こんにちは。お変わりございませんか。

会報でみなさん方の活動が伝わってきて、そのつどパソコンの上の連絡ポートに吊るしてあるメモ帳を見ながら、いつまでもいつまでも済みのマークが入らない「富田さんへ」に今日こそはと思つてのメールです。

一言でいえば「元気です」自分で身の回りの事が少しでも出来る人ならば、大した計画の消化ではないと思うのですが、何もかも段取りをしてもらつてからの行動への取りかかりですので大変です。

堺市の難病患者委託事業の代表を代行するようになつて以来、委託事業の内容の精査や職員の採用など理事会運営にかかわる日時が多くとられ、私の介助や介護に当たっているケアマネからは要介護5、重度訪問介護を受けているのにハード過ぎませんか、からかわれています。

どうやら私の周りにいる難病患者や障害者の方は別格かも？

会報は毎号楽しく読んでおります。岸田美智子さんや定藤邦子さんの内容は活動する

上で、考えの参考にしております。また岡先生のエッセーや稲垣さんの晴れのち晴れは、格別の趣があつて本当に良いです。

舞さんのスウェーデン留学記は先月で12回ということで1年を超えましたね。

10月30日に岸田さんをよくご存知の、自立生活センターマイロードからセミナーへの講演にと依頼があり、いっしょに勉強させていただきました。その時のことですが、フロアからの福祉に対する質問があり、コーディネーターを務めていたM大学の教授からスウェーデン・ヴェクシヨール大学の話がありました。

舞さんの留学記の生活模様が再現されたかのように頭の中で駆けめぐっていました。教授もまさか福祉と身体障害に対する答えの中で、ヴェクシヨール大学の舞さんからの留学記にちなんだ、私の「らしいですね」の話にはびつくりされていました。

久しぶりのメールで、なんだか思いつくままに書いてしまいました、今出来ることを好きなように解釈して取り組んでいます。季節は冬への衣をつけ始めましたが、日毎に最低気温を記録するようになろうとしています。富田さん、(サロンあべの)のみなさん、どうぞご自愛のほどを！

ではまた。

(吉岡克彦)

寄りみち



落語家が噺に合わせて使う小道具は、原則として「カゼ」と呼ばれる扇子と「マンダラ」と呼ばれる手ぬぐいに限られているようです。扇子は刀、槍、箸、筆、キセル、船の櫓など棒状の物のほかに、開いた状態で手紙や提灯、徳利に見立てられます。手ぬぐいは財布や証文、煙草入れ、本、巾着など袋状・布状の物のほかに、紐や縄として使われます。扇子と手ぬぐいは、落語の表現上抽象性があらかじめ与えられており、状況に応じて、様々な用途で使用されています。(石)

<サロン・あべの>VOL. 258 発行：平成19(2007)年12月15日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます